

十二月の寒さは、地方によつて差があるにしても、先づ、室内本位になり易い月といへよう。子ども自身は風の子すなはち冬も戸外の生物といはれるが、幼稚園の子はまだ風の子の弟や妹であるので、聊か寒さにかじかんだりする。その上、その幼さをいづくしむといふか、いたわるといふか、あやぶむといふか、何んといつても風の來ない室内に仕舞ひ込んで置かうとする。その上、御自身のお寒さも手傳つてと申し上げては濟まないが、自らさきに立つて、子ども達を外へ外へと誘ひ出す保姆さんは少ない。そうすると、子ども、それに慣れ、それに弱められて室内生物になる。頬を紅くして呉れる冬の空氣の爽かさを嫌ひ、たこを舞ひ上らせて呉れる北の風の勇ましさを畏れ、年寄りくさくさかじかんで仕舞ふ。ところで、之れが健康鍛練の上によくはないことはいふまでもないが、生活訓練としても極めて望ましくない躰けである。若しこれを一つの躰けとし名をつければ、弱化躰けとでもいはいうか、性格を強くすることを根本とする躰けの本義とは全く反對のことになる。春の戸外は軟風の快さである。夏の戸外は清風の快さである。秋の戸外は晴風の快さである。別に躰けられなくても出たくなる戸外である。その戸外生活の習慣が養はれたからとて、性格上に何んの貴さがあることでもない。冬の戸外生活こそは、鍛へられる生活であり、鍛へられた生活であり、一つの貴い躰けである。それも、たと寒風に吹かれて直立してゐる躰けではない。かける、とぶ、はねる。風が吹けばその風に向つて走る。ぶらんこに乗ればその風を切つて漕ぐ。冬の風そのものは烈げし

く、その寒さこそは嚴しいが、斯うして冬の生活を快しとするのである。大きな躰け、強化躰けである。

寒い日を強いて戸外に出ないとしても、寒さは室内にもあり、その寒さに負けたらゝの不行儀があり易い。殊に、家庭の朝夕に、冬の不精といふことが澤山ある。ふところ、に引込む手、火鉢を離れない手、厚着に重い足、こたつを出ない足。不精は生活の弱さでもあり、だらしなさである。うんと強く躰けなければならぬことである。

自由遊戯

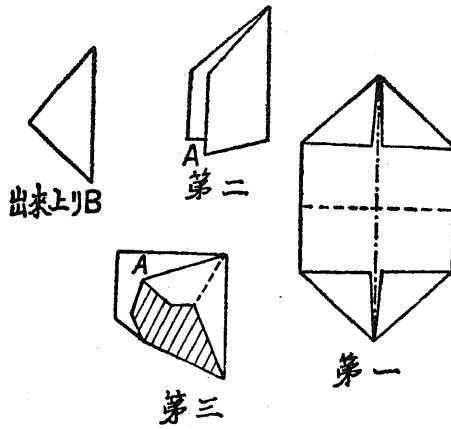
上遠文子

すつかり枯葉も落ちてしまつた梢に吹く北風も寒さうに音を立て、居ます。大人には、寒い冬、忙しいこの月が、子供達には、目の前に待つてゐるお正月を指折敷へてまつ楽しい月なのです。この月は寒さも次第にきびしくなりますので、屋内保育の場合が多くなる事です。室内だと、さかく不衛生になりがちですので、換氣は常に忘れず、晴天の午後は外で遊ぶ様に致しませう。子供は風の子です。

紙飛行機とはし 大東亞の空に武勳を立てゝある 海鷲、陸鷲のお話を聞くたびに、小さい僕達も拳を握つてしまふ。古くなつた雑誌をほごして、紙飛行機を作りました。年長組の子供は一人種々の形の飛行機を折ります。その折方で、よく飛ぶので自分

でそれを工夫し、そこに一つの科學心を養ひます。

紙鉄砲 これも古新聞紙又は古雜誌で作ります。これもとても幼児によるこぼれ雨の日等一日家にとちこめられた時のよい玩具であります。作り方は御存知と思ひますが御参考までにかかげませう。



- 1、紙は長方形のもの、よろしい。
- 2、四隅を第一の隅の様に折る。
- 3、それを縦に半分に折る。
- 4、横に半分に折る。
- 5、頂點Aを第三の様に内側に折込む。
- 6、B點を持つて勢よく振り音を出す。

三角とり これも靜かに遊べる遊びでせう。自分の小さい時盛にやつた事を思出します。小圓を澤山かき、ジャンケンで勝つ毎に線を引き二つの圓を繼いで三角を作つてゆきます。そこに一つの工夫力も手傳ひ、年長組にはよい遊びでせう。

かるた遊び 「もうあと幾つねるとお正月」 指折數へて待つお

正月。待ち切なくてかるたを出して遊び始めました。年少組は先生が讀み、子供は取るだけ。年長組になると字も少しづつ讀めてくるのでお友達同志で讀合ひます。「イ、ヌ、モ、アルケ、バ、ボ、ニ、ア、タ、ル」切れ／＼に讀む聲に皆は一生懸命さがします。紅潮してくると兎角亂れがちになりますから先生はその團體競技精神をよく指導せねばなりません。

双六遊び 手技でこの間から一生懸命作つてゐた双六が、出来上りました。サイコロも新聞粘土で上手に出来ました。僕の自動車双六、私のお人形双六と變り／＼皆で遊びませう。お名前の札をフリダシに、ジャンケンで勝つた人からサイコロを振ります。「義子ちゃんは五つ」一つ二つ三つ……五つ。札を五つ目の所におきます。そして早く上りに行つた方が勝つです。數の觀念も自然と折込まれて居り、昔は艶麗な女子達^{チナゴ}が膝をまじへてしたであらうこの古風的な、しかも現代味を多分に持つ遊びとして捨てがたきお正月の遊びでありませう。

凧あげ、羽根つき カチン／＼とお正月を待たびる音が聞えて來ます。男は凧あげ、女は羽根つき。凧あげは、年少組には先生があげてみませう。年長組の人は自分であげてみませう。風の工合、糸の引加減、此處にも科學する心がおこつてきます。先生も一緒に工夫して低くても皆で上げた喜びはいひしれぬものです。

羽根つき。冬の運動の一つとして、體全體の活動なので寒さも何處かへ飛んでしまひます、お天氣のよい午後お外で思ふ存分お

空を仰いで致しませう。

遊 戯

古 澤 静 子

寒くなつて参りました。暑さ寒さによつて運動を調節し、身體に及ぼす影響のコントロールをしなければなりません。

寒い日の遊戯は、早く身體が暖くなる事が必要でありますから、その時間は最初に駆足をしたり、行進の時間を長くしたりして準備運動にする事もよいでせう。そして遊戯も成るべく跳躍的なものをその日の計畫の中におり込みたいと思ひます。

「かしん場」 日本幼稚園協會發行 幼稚園新唱歌所載

隊形。二、三人一組になつて一緒に行動する。

「前奏」 各自、右臂を曲げて大工さんの道具を肩に擔いだ姿勢をとり、一組づつかたまつてスキップで好きな方向へ行き、前奏が終つた時、一組の者がむきあつてその場に坐る。

「のこぎりのおとゴシゴシゴシゴシ」 坐つたまゝ。兩手を握つて、鋸を持つた姿勢をとり、鋸で木をひく様に、體の先方に兩手を出して次に體の近くにひきよせる。この動作を一小節に一回行ふ。

「かんなのおとがスースースー」 鉋を持つ様に兩手の指を曲げ、鉋で板を削る様に、體の左から右へと兩手を伸ばしては、ひきよせる。この動作を一小節に一回づゝ行ふ。

「くぎをうつおとんカチンカチントントン」 兩手を固く

握り、右手を高く上げて、左手の上に打ち下ろす。一小節に一回づゝ打ち、「トンカチ／＼／＼／＼」の時に、歌詞にあはせて少し早く打つ。(結局七回打つ事になる)

二 節

「さんかくしかく」 始めの四呼間、各自掌を交互にかへしながら二回拍手し、次に一組の者全體で、お互ひに掌を三回打ち合はせる。この動作を二回繰り返して行ふ。

「大工さんがくれた」「さんかくしかく」と同動作。

「木のきれ小ぎれ積木にしませう」 掌をかへし、積木を重ねる様に、皆の手を集めて掌の上へ上へと重ねてゆく。

「くぎをうつまねトンカチ／＼／＼／＼」

一番と同じ。

「お正月」 エホン唱歌フユノマキ所載

隊形。全生圓形を作り連手する。

「お正月がくるぞ」 全生連手して圓心に進む。

「一つお年が」 掌を交互にかへして拍手しながら後退する。

「多くなる」 兩手を出し、拇指から順に曲げ、又順々に開いて年を数へる。(一呼間に一指づゝ曲げる) 休止符のところは動作を休む。

「うれしいな／＼」 圓周に沿つて左に歩きながら、右手を大きく後から上にあげ、體前で左手の上に打ち下ろして「な」の時に拍手する。この動作を四呼間で行ひ、次の四呼間は反對の方向に進んで、今と反對に左手を大きく後から上にあげて前から下ろし、